

制服を着た青年について

父がラジオの男であることに気づいたとき
子どももまた心を閉ざす
植物とだけ会話をして
植物の利益を代弁できると信じて
活動を始めるのだ
制服は

どこで売っているわけでもない
もっぱら彼らのお手製だ
母親に隠れてミシンをまわし
それぞれに植物愛をカタチにするのだが
町を歩く彼らの制服は
既製品とは思えない
同一のデザインをしている
この奇妙な共時性は
ラジオとかインターネットを通じて
広がったものではないらしい
父の不在が一般化したとき
子どもたちの心が具象化されたものだ
という大人もいる
だから
彼らは集会を持たない
一人ひとりの思いで行動を始めながら
気づけば正確に同じ目的を目指している
それだけのことだ

街角の記憶

もう消えてしまったビルのその跡に建った新しいビルの薄い壁を通して
昔の人の笑ったり囁いたりするさざめきが聞こえてくる
あのときのままの唇の動きをなぞることができる
私は過去に強いこだわりをもって
この界限を歩いている
銀座の表通りに近頃できた
アップルコンピューターの販売店の看板は視界に入らない
その裏の通りにあった小さな酒場は見つけることができるのに
こんなことでは始まったばかりの
二十世紀から取り残されてしまうのは
よくわかっていただけ
それでも万年社の社員が
いまでもうらぶれた会議テーブルの向こうで
あまり先の無い
小口のクライアントのために
小さなプレゼンテーションの準備をしているのが見える
忘れているのは今日の約束だ
こんなにいっぱい小さなビルがあつて
小さな会議室がその中であつて
どこかに私を待っている人がいるのに
過去だけがどうしようもなく
現実なのだ

季刊 電話ボックス 2号



帰宅

新橋駅から銀座方面に向かう人波とすれ違う
確かにまだ午後八時を過ぎたばかりだけれど
こちらはもう家に帰るのだ
くたびれた内臓が
帰宅を促している
お定まりの方程式でアルコール過多
野菜が不足している
睡眠も安定しない
健康のことがいやに気になって
おちおち飲んでいられないこんな日は
顔見知りか声をかけてきても
気の無い返事をして
家に帰るのだ
ラジオの男が
同じ方向に急いでいる
彼だって
ラジオではいられなくなる日もあるんだ
家に待っているのが
これもまた
倦怠した家族かもしれないし
家族のいなくなった
部屋かもしれないけれど

2004年10月31日刊

発行人 中上哲夫 〒220-1103 神奈川県相模原市橋本4-11-10-408

淵上熊太郎 〒414-0002 静岡県伊東市湯川522-1

俳句のある詩・1

草間時彦が亡くなった日

草間時彦が亡くなった日

八十一歳の父が緊急入院した

激しい下痢と嘔吐で。

風邪なんか病気のうちに入らないというのが口癖の父が
インクのような青い顔でいったのだ

119番に電話してくれと

見舞いにいくと

ベッドに縛りつけれた父が

鼻唄をうたっていた

輸血輸血と

一週間後

ユリシーズのようにタクシーで威風堂々と帰還した父は
他人事のようにいった

息子夫婦にいった

すてきな旅だったよ

そこは色とりどりの花が咲き乱れていて

美しい娘たちが歌をうたいながらそぞろ歩いているんだ

蟹股三兄弟

親に似ず

そろいもそろって蟹股で

並んで歩く姿は見られたもんじゃないわ

妹がいったように

兄と弟はすこしずつ斜行していった

とうとう大学をやめてしまった

如雨露から水がもれるように。

矯正効果がもっともいちじるしいといわれていたわたしも

卒業するのに五年かかったし

就職しても

職場をてんと移動して

結婚するまで落ち着かなかった

さきに結婚した兄は

港の見える丘にちいさな家を建て

二人の子どもに恵まれたけれども

ある日離婚し

家を出てしまった

いずこともなく

蟹股で

そして

歩き方がもつともまともだと思われていた弟は

はたらき盛りに歩くことをやめてしまって

父を悲しませた

ある日

港町の裏通りで棒をふりまわしている蟹股の男に出会った

一緒に棒をふりまわしていると

どこかで声がした

蟹股でもいいではないか

ともあれ歩いているのだから

季刊 電話ボックス 2号



2004年10月31日刊

発行人 中上哲夫 〒220-1103 神奈川県相模原市橋本4-11-10-408

淵上熊太郎 〒414-0002 静岡県伊東市湯川522-1

その後の〈荒野の電話ボックス〉

〈荒野の電話ボックス〉がハイウェイの端をとぼとぼ歩いているのを見たという者もいるし
疾走する車たちに親指を突き出しているのを見たという者もいるし

暴走する黄色いスポーツカーの助手席にすわっているのを見たという者もいるし

ガソリンステーションのシャワールームで汗と埃を流しているのを見たという者もいるし

モーターの駐車場で車にもたれて煙草をふかしているのを見たという者もいるし

ドラッグストアでアスピリンを買っているのを見たという者もいるし

教会の石段で猫に餌を与えているのを見たという者もいるし

公立図書館の閲覧室で新聞を読んでいるのを見たという者もいるし

郵便局の窓口で大きな小包みを受け取っているのを見たという者もいるし

白い家のガレージ前で子どもたちとバスケットボールをしているのを見たという者もいるし

メインストリートを転がる帽子のあとを必死に駆けていくのを見たという者もいるし

ダウンタウンの公衆電話でだれかと楽しそうに話しているの見たという者もいるし

カフェテリアでスパゲッティをまでするすするすっているのを見たという者もいるし

若い女と肩を組んでバーのなかへ消えていくのを見たという者もいるし

裏通りで若い男たちと殴り合いをしているのを見たという者もいるし

場末のバーのぬれた床で酔いつぶれているのを見たという者もいるし

町はずれの大きな櫨の木に熊のようにのぼっているのを見たという者もいるし

農家の納屋の裏でみみずを掘っているのを見たという者もいるし

犬に追いかけてられて田舎道を血相をかえて走っているのを見たという者もいるし

深い穴の底で大声で叫んでいるのを聞いたという者もいるし

増水した川を丸太のように流されていくのを見たという者もいるし

川岸の草の上でぬれた衣類を干しているのを見たという者もいるし

川原で水切り遊びをしているのを見たという者もいるし

スーパーストアでスポンを選んでいるのを見たという者もいるし

廃止になった鉄道のさびた線路にぼんやりすわっているのを見たという者もいるし

長距離バスの無人のバスストップでバスを待っているのを見たという者もいるし

大きな箱をかかえてハイウェイをスキップしてしながら去っていくのを見たという者もいるし

逆立ちして交差点を渡るのを見たという者もいるし

夕立のなかをすぶぬれになって歩いているのを見たという者もいるし

大きな木の下お原にうずくまっているのを見たという者もいるし

サボテンの砂漠を足をひきずって歩いているのを見たという者もいる

だけどみんな噂にすぎず

まだ荒野に立っているかもしれないよ

中上哲夫